

## ■パキスタン：パキスタンで過去最悪レベルの負荷制限（計画停電）が発生

関係紙は2010年4月4日、パキスタンで過去最悪レベルの負荷制限（計画停電）が発生していると報じた。首都イスラマバードの給電指令センター（NPCC: National Power Control Center）は、パキスタン電力（PEPCO）と傘下の配電会社の管内で3月29日～4月3日にかけて負荷制限を行ったが、制限電力量は明らかにされていない。報道によると、原因は需要増によるものと推定され、需要の伸びが予見されていたにもかかわらず政府が電源増強などの適切な対策を採らなかったこと、PEPCOが債務超過に陥り燃料である原油の購入ができなかったことを挙げている。水資源電力省とPEPCO経営陣は当初、追加供給力（150万kW～200万kW）の確保によって2009年12月31日には負荷制限が終了するとしていた。しかし、総需要1,600万kWに対して、エネルギーの22万5千kWが2010年3月に運開しただけであった。国連データ（Energy Statistics Yearbook, 2006）によるとパキスタンの総発電設備容量は1,942万kW（2006年現在）で、この中には点検中、故障中、または長期計画停止中で使用できない電源も相当数含まれていると推定され、予備力が慢性的に不足しているとみられる。現在も、PEPCO管内では1日12時間の負荷制限が解消されていない。また、PEPCOの債務超過について、その原因としてカラチ配電（KESCO: Karachi Electric Supply Company）からの電気代金の滞納があると報道されている。それによれば、2010年3月末現在のPEPCOの債務は1,860億パキスタンルピー（注：1パキスタンルピー＝約2円）、債権は1,960億パキスタンルピーで、債権のうち500億パキスタンルピーはカラチ配電から回収されることになっていたが、昨年6月を最後に支払いが滞っているとされている。